

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	地域課題に対応した市民主導によるコミュニティ空間計画に関する研究ーヨコハマ市民まち普請事業における市民主体の認識と空間実践ー
Title(English)	A Study on Community Space Planning Driven by Citizens in Response to Regional Issues -Citizens ' Awareness of Issues and Spatial Practices in Yokohama Shimin Machibushin Project-
著者(和文)	韓 昌熹
Author(English)	HAN Changhee
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第12023号, 授与年月日:2021年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:那須 聖,室町 泰徳,真野 洋介,藤田 康仁,真田 純子
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第12023号, Conferred date:2021/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

(博士課程)
Doctoral Program

論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース:	建築学 都市環境学	系 コース
Department of, Graduate major in		
学生氏名:	韓 昌熹	
Student's Name		

申請学位(専攻分野):	博士 (学術)
Academic Degree Requested Doctor of Philosophy	
指導教員(主):	那須 聖
Academic Supervisor(main)	
指導教員(副):	
Academic Supervisor(sub)	

要旨(和文 2000 字程度)

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters) 本論文は、市民が主導的にまちづくり活動を行い、それに対応したコミュニティ空間のニーズも高まっている状況で、今後、市民によるコミュニティ空間の質的な向上、継続的な活動と運営が可能なコミュニティ空間の計画要件を明らかにすることを目的とし、以下の7章より構成されている。

第1章「序論」では、研究の背景として、80年代からの日本のまちづくり活動状況や市民による公共空間の活用などを述べた。また、既往研究を踏まえ、コミュニティ空間を定義し、コミュニティ空間計画を専門家だけではなく市民が計画することに着目し、市民にとって空間計画が容易ではない状況を解決するために、計画内容を体系的に、客観的にみる試みが必要だと考えた。そこで、市民が行政と専門家の協働で生活環境整備提案を行う先駆的・継続的な取り組みとしての「ヨコハマ市民まち普請事業」を位置付け、研究の目的を示した。

第2章「地域課題とコミュニティ空間の性格」では、2005年から2019年まで「ヨコハマ市民まち普請事業」に提案された提案の中で、滞在、交流、拠点などを目的としているコミュニティ空間に関する整備提案書110件を対象として、市民が認識した地域課題を典型的に明らかにするとともに、市民によるコミュニティ空間に対する提案内容の分析により、整備提案の物理的な範囲とコミュニティ空間の性格の類型を明らかにした。

第3章「市民により整備されたコミュニティ空間の検討内容」では、まち普請により実現された12件のコミュニティ空間を対象として、各事例ごとに概要と特徴、地域課題、空間を中心にした活動領域を整理し、コミュニティ空間の企画から現在まで関わってきたコアメンバーへのヒアリング調査と現地調査に基づき、コミュニティ空間の計画段階での検討内容を整理した。その結果として、コミュニティ空間の計画は室とその部位において必要性、多目的性、使いやすさ、安全性、雰囲気、快適さ、好み、入りやすさ、バリアフリーから検討され、その他にも、セキュリティ、空間のイメージが検討されていたことを明らかにした。

第4章「実践段階におけるコミュニティ空間の検討と変遷」では、3章で取り上げた12件のコミュニティ空間に対して、コアメンバーへのヒアリング調査と現地調査により、各コミュニティ空間の実践状況、改修工事、空間の変遷とその理由、空間を中心にした活動領域の変遷を整理した。その結果、12件のうち11件のコミュニティ空間から、改修工事や空間の変遷を把握でき、使いやすさや快適さについての検討が継続に行われたことが確認できた。また、破損の修理、関係者からの寄付品などの対応、コミュニティ空間での活動に必要な環境的な快適性に関する追加整備を把握した。計画段階で想定された主な空間の性格と比べ、空間での活動内容がより多様な性格を帯びているが、空間を中心にした活動領域には大きな変化はなかったことを明らかにした。

第5章「コアメンバーの経験・参加動機・活動意義にみる空間整備の意義」では、前章に引き続き12件のコミュニティ空間を対象とし、空間の企画段階から現在まで関わっている代表とそれに

準するコアメンバー28 人へのアンケート調査に基づき、コミュニティ空間での活動に参加した動機と、現在活動している意義を把握し、コミュニティ空間整備の意義について考察した。その結果、整備提案以前の地域活動経験 5 種と、現在の活動への参加動機 5 種を抽出し、さらに、空間整備を伴う活動の意義として「地域内の人間関係の促進・増加」、「自分たちのまち・環境・場を自分たちでつくっていること」、「社会的な状態・活動づくり・ソフトを自分たちでつくっていること」、「地域・人に役立つこと」、「周りからの評価」、「個人の成長と存在」の 6 種を明らかにした。

第 6 章「市民によるコミュニティ空間の計画要件に関する考察」では、各章の結果を整備提案の始まった段階から実践までの「整備提案以前の地域活動経験」、「地域課題の設定」、「計画」、「実践」という段階で整理し、各段階に該当する内容の検討時期の再構成を試した。その結果、活動組織の編成、地域課題の定義と共有、空間計画の各段階におけるコミュニティ空間の計画要件を提示するとともに、「空間の性格」と「検討内容」の組み合わせにより、コミュニティ空間の具体的な計画を支援する計画要件と地域課題の検討により客観的に自分たちの活動と企画案を検討するマトリクスを提示した。

第 7 章「結論」では以上を総括し、本論文の結論として、先駆的な市民の環境整備提案事業における市民による地域課題の認識、コミュニティ空間の企画から実践までの認識を明らかにしたこと、その内容を時系列に沿って整理することで、「活動組織の編成」、「地域課題の定義と共有」、「空間計画」 3 つの過程における計画要件を提示したことを述べた。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1 copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

(博士課程)
Doctoral Program

論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース:	建築学 都市環境学	系 コース
Department of, Graduate major in		
学生氏名:	韓 昌熹	
Student's Name		

申請学位(専攻分野):	博士 (学術)
Academic Degree Requested Doctor of Philosophy	
指導教員(主):	那須 聖
Academic Supervisor(main)	
指導教員(副):	
Academic Supervisor(sub)	

要旨(英文 300 語程度)
Thesis Summary (approx.300 English Words)

This study is to promote the quality improvement of the community space that contributes to the creation of citizen-driven's community development. We present planning requirements for community spaces that enable ongoing activity and management.

Recently, there is a growing demand for citizens to take the initiative in making community design and community spaces. In Japan, there is an advanced "Yokohama Shimin Machi-bushin" Project that designs, maintains, and manages living environment maintenance for citizens to lead the discovery and solution of regional issues.

In this project, citizens are proactively proposing and improving the urban environment, administrative, and urban planning experts support this. We select 110 proposals related to community space and 12 cases of community space among the project outcomes of this project for 15 years. Interviews and surveys were conducted with core members of the community space, regional issues, and reviews of the space recognized by citizens were investigated through field and literature surveys.

The survey results were arranged in chronological order (from the discovery of regional issues to the management of community spaces). The arrangement consists of three stages: "organization of an activity group", "excavation of local projects" and "spatial planning stage". We consider about managing community spaces and sustainability. A matrix table was presented to help citizens to examine their activities themselves and looked at objectively their plans for the community spaces.

Hopefully, this matrix table will help citizens to find specific plans and regional issues for their community spaces.

備考: 論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。
Note: Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意: 論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。
Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).